

部門別売上高



2006年3月期における当社グループの連結売上高は、前期6,578億53百万円より20.9%増加し、7,951億80百万円となりました。

当社グループが属するエレクトロニクス産業においては、液晶およびプラズマに代表される薄型テレビやDVD(デジタル多用途ディスク)レコーダー等デジタル家電の市場が、当期は拡大しました。ノート

電子素材部品部門

電子材料



主要製品

積層セラミックチップコンデンサ、コイル・トランス用フェライトコア、フェライトマグネット、希土類マグネット

2006年3月期の業績概要

前期比3.4%の増収。コンデンサは、売価下落による減収をカーエレクトロニクス向け増収で補い微増収。金属磁石は、HDD用途の伸びにより増収。

電子デバイス



主要製品

コイル(インダクタ)、高周波部品、EMC対策部品、圧電部品、センサ、トランス、DC-DCコンバータ、スイッチング電源、DC-ACインバータ

2006年3月期の業績概要

前期比32.9%の増収。インダクタ、電源など既存の電子デバイス製品の増収に加え、2005年10月1日に買収したラムダパワーグループを新たに連結対象としたことにより増収。

記録デバイス



主要製品

HDD用ヘッド、サーマルヘッド、光ピックアップ

2006年3月期の業績概要

前期比34.7%の増収。HDD需要の拡大によるHDD用ヘッドの増収。

その他電子部品



主要製品

有機ELディスプレイ、電波暗室、メカトロニクス

2006年3月期の業績概要

前期比87.0%の増収。電波暗室、新規事業の増収。

記録メディア製品部門



主要製品

オーディオテープ、ビデオテープ、CD-R、ミニディスク(MD)、DVD、コンピュータ用データストレージテープ

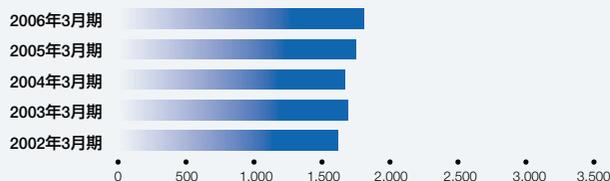
2006年3月期の業績概要

前期比4.6%の減収。民生用オーディオ・ビデオテープは需要減により減収。光メディア、データストレージテープは増収。

PC(パーソナルコンピュータ)やHDD(ハードディスクドライブ)、携帯電話の市場も好調に推移しました。中でも、メモリアーディオレイヤー(半導体やHDDを記録媒体とする機器)の市場が急速に拡大しました。カーエレクトロニクス向けの市場は堅調を維持しました。各製品に使用される部品点数の増加というプラス効果もあり、結果と

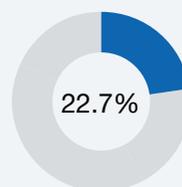
して、当社グループが取り扱っている電子部品の需要も当期は好調を維持しました。このような経営環境の中、当社グループは2件の企業買収を行う一方で、記録メディア製品部門の収益構造改革を実行するなど、収益力を高め成長を加速する投資も積極的に行いました。

電子材料の売上高推移 (億円)

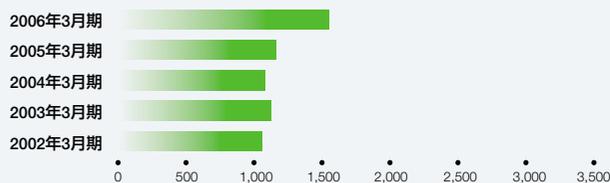


電子材料の売上高構成比

2006年3月期



電子デバイスの売上高推移 (億円)

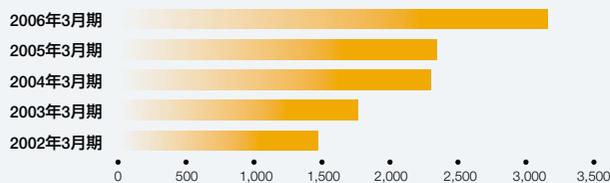


電子デバイスの売上高構成比

2006年3月期

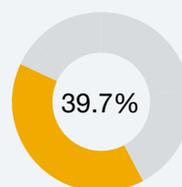


記録デバイスの売上高推移 (億円)

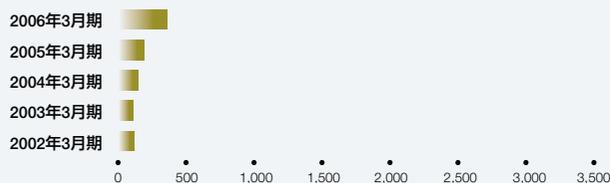


記録デバイスの売上高構成比

2006年3月期

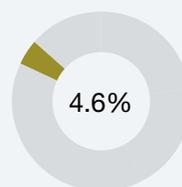


その他電子部品の売上高推移 (億円)

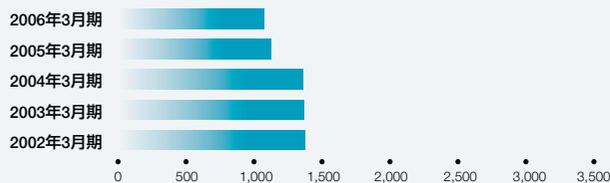


その他電子部品の売上高構成比

2006年3月期



記録メディア製品部門の売上高推移 (億円)



記録メディア製品部門の売上高構成比

2006年3月期

